

ほつかいどう NIE 通信

Newspaper in Education



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 ☎ 011-210-5802 FAX 011-210-5826

北海道NIE研究会（会長、日下部憲一・札幌宮の森中校長）と当協議会共催の本年度第2回NIE実践交流会「冬季研修会」が1月13日、北海道新聞社NIEプラザで開かれた。道内各地から約40人の教師が参加、小中高生授書欄に対するさまざまな反響や新聞活用の事例に熱心に耳を傾けた。

同研究会は、NIEに取り組む教員組織で、①新聞教材の開発と活用②生涯学習に必要な情報活用能力の育成ーの2点を研究の柱にしている。日下部会長の開会あいさつのあと、北海道新聞社NIE推進センターの本間康裕委員が「みらい君の広場から見た子どもの姿」をテーマにミニ講演し、掲載された小中高生との交流や投稿に対する読者、父母、教師からの反響を紹介した。中学1年の父親から届いた手紙には「息子は掲載されたことで大いに変わり、

2006年の国際学習到達度調査（PISA）で、日本の子供たちが前回よりも読み解力や数学的応用力で国際順位が下がったことから、『学力低下』が随分騒がれ、その後論議を呼んだ。調査は、『知識・理解』よりも『活用型の学力』を見る

と、道徳の教材や学活時での話題に新聞記事を利用することが多かった。専門教科の数学では、せいぜい授業の余談に利用するぐらいである。近頃は、自分自身の反省も込めて、数学の教材としている。

新卒時代に先輩教師がよく『教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるのだ』と言つていた。教科書べつたりの授業を戒めたものである。

新聞には、日常様々な統計事が載つているし、意識して読めば数学ネタも探し出せるものである。例えば、昨年産経新聞に連載された秋山仁・東海大学教育開発研究所長の「こんなところにも数学が」は、図形、組み合わせ、確率などの授業で活用できる。また、単元での導入や展開だけでなく、他にも「おもしろい数学」、「生活に生かせる数学」として大いに使えるし、身の授業改善にも役立つと思

て新聞をもつと有効に活用できないかと思うようになつた。

新学習指導要領の数学は、新たに「資料の活用」を加えた、4領域で構成されている。前々回は、確率・統計で資料を整理することを目的とした「資料の

整理」という表現があつたことを記憶している。今回は整理された結果を活用して、そこにあらわれた数字をどう読み解くかを考えたり、説明せたりするような数学的活動を重視している。

明、同研究会副会長の坂田恵三・札幌太平中校長が第13回北海道NIE研究大会について報告した。

実践発表では、札幌市篠路西小の結城学教諭が前任の登別市緑陽中時代の取り組みを紹介。「新聞とは何

か」をアンケートしたところ、「テレビで言わないので報がある」と予想しない回答をした1年生がいて驚いた。新聞の意義をここまで感じ取れる生徒に育つたことが一番の成果と語った。

NIE実践校の江別市角山中の阿部毅教諭は、中学3年の国語で、「みらい君の広場」に掲載された同年代の授書を使つて自分の意見をまとめる学習内容を説明。また、3年

北海道新聞ホームページ「NIE」（www.doshin-nie.com/）でバックナンバーから閲覧できます

「新聞が子供を育てる」

NIE研究会 冬季研修 投稿欄への反響紹介

新規や国語に興味を持ち、読書をするようになった。子どもは親の力だけでなく、新聞の力によつても育てられていると実感した」と書かれていることなどを披露した。

高辻清敏NIEコーディネーターは、昨年11月の第

新卒時代に先輩教師がよく『教科書を教えるのではなくて、教科書で教えるのだ』と言つていた。教科書べつたりの授業を戒めたものである。

新聞には、日常様々な統計事が載つているし、意識して読めば数学ネタも探し出せるものである。例えば、昨年産経新聞に連載された秋山仁・東海大学教育開発研究所長の「こんなところにも数学が」は、図形、組み合わせ、確率などの授業で活用できる。また、単元での導入や展開だけでなく、他にも「おもしろい数学」、「生活に生かせる数学」として大いに使えるし、身の授業改善にも役立つと思



3年の国語で、「みらい君の広場」に掲載された同年代の授書を使つて自分の意見をまとめる学習内容を説明。また、3年

第5回室蘭・胆振セミナーは2月7日、第7回帯広・十勝セミナーは同14日、それぞれ北海道新聞室蘭、帯広両支社で開かれた。室蘭では4人、帯広では5人の先生たちが、かべ新聞づくりや投稿欄への応募などによって「子供たちがどう変わったか」を実践発表した。

学習意欲高める新聞作り

●室蘭

参加者は15人。室蘭市日新小の鶴富士子教諭は、「わがまち新聞コンクール」に応募する新聞づくりを通じて「子供たちの自分で調べ、生きと進んで学習に臨む気持ちが高まった」と報告

した。写真。

洞爺湖町虹田中は、毎年レベルの高いかべ新聞を作っている。寺島一樹教諭は「作品が多く人の目に触れ、良い評価を得ることで、子供たちが達成感を得る。親たちも喜んでくれる」と成果を述べた。

室蘭大谷高の佐藤寛子教諭



心に響く記事選びが力ギ

●帯広

約30人が参加。音更町音づくりなどで子供たちが変わったことを紹介。「新聞に親しむ姿を様々な場面で目にするようになった」と述べた。

本年度のわがまち新聞コンクールで全国一となつた帯広第一高等学校で全



NIE実践奮闘記

規労働の現場から」の特集記事と、派遣会社の人チラシを授業で用い

となどを授業で話した。
思ったよりも生徒の反応は良く、「同じ仕事をしているのに正社員と非正規で給料が違うなんて、

ストが豊富で、言葉遣いも平易なため、分かりやすくはなつていて、それでも「現代社会」や「政治・経済」の教科書には抽象的で難解な言葉が登場する。本校の生徒は、耳慣れない言葉が多くなつた」と強調した。

教科書に書かれていることが現実の社会で起きていることを生徒に認識させることで、新聞記事は有益な教材であると思う。

教科書と生徒つなぐ新聞



教科書と生徒つなぐ新聞

世の中はうまくできていない。そこで「チラシに書かれてある奨励金や給与が、条件通り支払われない事例があること」「事前の話と、現地での勤務条件等に食い違いがあるこ

と」などを授業で話した。
思つたよりも生徒の反応は良く、「同じ仕事をしているのに正社員と非正規で給料が違うなんて、

い教科書をどうしても疎遠に感じてしまうようだ。

その点から、本校の生徒に対する態度を少しでも減らすためNIEを実践したいと考えている。

NIEの取り組みを通じて、少しでも生徒の勤労観、職業観を育成できればと思っている。

厚生労働省によると、高校を卒業して就職した生徒の内、約半数が3年以内に退職して

協議会と研究会 5月23日に総会

協議会と研究会
5月23日に総会
この心に響く記事を提示することの重要性をあらためて実感した」と語った。

役立っている」と強調。写真。本年度かべ新聞コンクールで大賞に選ばれた池田町高島中の駒澤嗣夫教諭は、新聞制作だけではなく、新聞を読む習慣を身につけるため、投稿欄の活用などを紹介した。上士幌高の上村剛教諭は、コラムや記事を使い生徒たちの読解力向上などに活かしていることや、起業家教育での情報活用能力の育成について報告。NIEアドバイザーである帯広市啓西小の森谷栄介教諭は、昨年帯広市内で起きた赤ちゃん置き去り事件の記事を使つた、命の大切さを考える授業内容を説明。「タインマリーな記事は教材としての効果が大きい。子供たちの心に響く記事を提示することの重要性をあらためて実感した」と語った。

大学時代にNIEの存在を知り、教員になつたらぜひ取り組みたいと考えていた。教員になって3年目、幸いにもNIE実践校に認定され、公民科「現代社会」において、新聞をはじめとする情報および現在の社会全般に対する認識能力を育成する実践に取り組んだ。現在の学校に転勤してからは、前任校での取り組みに加え、NIEをキャリア教育に活かす実践を模索している。

一昨年、北海道新聞の「出稼ぎフリーターネット」は、正

士別東高教諭

大端 開

規労働の現場から」の特集記事と、派遣会社の人チラシを授業で用い

となどを授業で話した。
思つたよりも生徒の反応は良く、「同じ仕事をしているのに正社員と非正規で給料が違うなんて、

い教科書をどうしても疎遠に感じてしまうようだ。

その点から、本校の生徒に対する態度を少しでも減らすためNIEを実践したいと考えている。

NIEの取り組みを通じて、少しでも生徒の勤労観、職業観を育成できればと思っている。

活動計画などを決める。

「地産地消」「買わない、棄てない」

身近な工夫で自給率向上

沼田高



生徒たちが熱心に学ぶ食料自給の授業＝沼田高で

見学したのは1月下旬。3年生11人のクラスで、公民科現代社会の単元「国際経済の問題と日本の役割」の授業。西村教諭は冒頭、前時を

持つている食料危機の問題に移り、その背景に①和食で国産品の材料不足②食品廃棄③穀物価格の高騰――の問題点があると具体的に説明した。

さらに、各新聞から切り抜いた「食糧自給率40%に回復」「食品廃棄増加」「国産食料品を選ぶ人は9割」「道内米農作、農家」などの記事を生徒たちに読ませ、自給率の向上が日本の農業の活性化につながることを明確にした。

さらに、各新聞から切り抜いた「食糧自給率40%に回復」「食品廃棄増加」「国産食料品を選ぶ人は9割」「道内米農作、農家」などの記事を生徒たちに読ませ、自給率を高められる」といふ感想や意見を書き、一人ひとりのちょっととした工夫が自給率アップにつながることを明確にした。

同校では、学校独自の設定期間の授業で、生徒が地

農業問題生き生き学ぶ

北空知の米作地にある沼田高は来年3月閉校となるが、授業中の生徒たちはそんな寂しさを感じさせず、生き生きとして明るい。日本の食料自給率を高め、農業の活性化を目指すにはどうしたら良いか、新聞記事を教材にしつかり学んでいる。西村直子教諭の授業をリポートする。

(小田原賢二・北海道新聞NIE推進センター委員)

先生20人が挑戦 編集「難しい!」

高校新聞指導研

北海道高校文化連盟新聞

専門部主催の第5回新聞指

導研究会が1月6日、北海

道新聞社で開かれ、約20人



「環境新聞」を作成する授業にも取り組んでいる。西村教諭は「新聞を作り、教材にすることで、生徒たちが農業や環境を身近な問題として捉え、理解を深めていく。読解力や表現力も向上している」と話している。

の教員が新聞の編集作業を体験した。

午前は、道立教育研究所

志・副部長、長沼高の荒木

美智雄教諭、江差高の岩間

洋之教諭が講義した。

午後からは北海道新聞の黒田正一・NIE推進センター長による実践講座。先

生たちは、レイアウトの基

本などの解説を受けたあと、切り抜いた記事を台紙

にはり、写真、人物

などを取り組んで「難しい」

を連発していた。また、札幌開成高の工藤幹男教諭を

同高野球部監督に見立てて

模擬インタビューし、人物紹介欄「ひと」の原稿書きに挑戦した。

のニュースについて新聞・雑誌・インターネットではどう違うか調べる、といふ2種類。皆夢中になつて比べたり、違う理由を考えたり。時間が過ぎても熱心に続け、本校で2年生に実践した時より深い意見が出ていて「さすが大人!」と感心した。

重要な図書館資料のひとつとしての新聞。子どもたちが一つの情報だけを盲信せずに、比較・活用できる人間に育つてほしいと思う。

(北海道学校図書館協会研究部長)

大学も初名乗り

新規実践校 4月末締め切り

日本新聞教育文化財団との協議会は2009年度の大学を含め11校の申し込みがある。新規校は4月末まで受け付けています。新規校は2月20日現在で30校で、このうちすでに30校が、新規校の申し込みを4月末まで受け付けています。

(奨励枠の5校を含む)が継続を希望、7校が実践を止める。無回答は11校。

新規校は小中高8校のほか、新たに教育大学など3大学からの申し込みがあり、問い合わせと実践校申し込みは当協議会事務局へ。

実践校 リポート

◆三叉路◆

佐藤 敬子

司書教諭

札幌市発寒中

毎年正月すぎに北海道学
校図書館協会は研修講座を開いているが、今年も1月

6日から3日間、札幌のかどで2・7で開催、全道から150名程度が参加した。その中で私が担当した

「情報・メディアを活用する学び方の指導」の講座中、実演として新聞を使った情報の比較をした。

参加者は教師など大人ばかりだったが、生徒のつもりになつて挑戦した。同じ日・同じ社の新聞でも、発行地域が違うものを比べる、同一



のニュースについて新聞・雑誌・インターネットではどう違うか調べる、といふ2種類。皆夢中になつて比べたり、違う理由を考えたり。時間が過ぎても熱心に続け、本校で2年生に実践した時より深い意見が出ていて「さすが大人!」と感心した。

重要な図書館資料のひとつとしての新聞。子どもたちが一つの情報だけを盲信せずに、比較・活用できる人間に育つてほしいと思う。

(北海道学校図書館協会研究部長)

図書資料として新聞活用

日本新聞教育文化財団と

当協議会は2009年度の

NIE実践校を募集してい

る。新規校は4月末現在で

大学を含め11校の申し込み

がある。

08年度の道内実践校は48

先生対象にNIE講座



朝日新聞社

取り組み

全国紙の

①

全国規模でさまざまなNIE活動を展開している全国紙の取り組みを5回にわたって紹介する。第1回は朝日新聞北海道支社から、同社のNIE講座や記者派遣事業、道内の大学生を対象にした活動などを報告してもらった。

朝日新聞社のNIE活動は①NIE紙面②ガイドブックやビデオなどの補助教材提供③先生対象の講座開催④学校などの記者派遣の四つが大きな柱となっている。

NIE紙面では、時事問題、科学、文化、芸能、スポーツなどの最新ニュースを子ども向けに解説する連載「のちやんの自由研究」

紹介する「先生のための新講座」などを開催している。昨年の「朝日NIE講座」は、新学習指導要領に

シップ推進事業の一環で依頼があり、新聞記者といふ職業を知りたいという1

市と栗山町の図書館が主催する第11回「町の魅力発見・

高校NIE研究大会

式が2月14日、千歳市公民館で開かれ、応募作品98点の中から小学生の手書きなど3部門で28点が表彰され

た。主な受賞作品と学校は

このほか、北大の教授陣

が全国の高校を訪れて講義

する「プロフェッサー・ビ

北広島若葉小など
優秀作品28点表彰

4市町壁新聞コンクール

お知らせ

同▽館長賞「米と農業のかけ橋」北広島市大曲賞「郷音」北広島市広葉▽NIE賞「キタヒロを見つめる」同東部▽館長賞「清秋」恵庭市柏陽

北大の「出張講義」支援も

も入っている「言語活動の充実」のために何ができるかを探った。

記者の派遣は年間を通じて実施しているが、学校が希望するテーマで圧倒的に多いのは「新聞記者の仕事」。08年は、「地球温暖化に絞った「出前講座 地球はいま」で、科学グループや写真センターの記者を派遣した。

一方、道内でも新聞と学校を結びつける取り組みを高から「高校生インター

NIEの研究者、実践者に詩人を交え、活字の大切さを考えた講座」。昨年11月、

編集後記

○…発信から交信へ。今号から紙面を変えた。従来はNIEに関する情報を発信する紙面作りだったが、これからはNIEに取り組む先生たちが交信し、互いのネットワークを広げ、深める手助けに重きをおきたい。

○…そのためには登場人物を増やしたい。3面の「三叉路」は、学校と行政、新聞社の交流の場として新設した。近況欄なので「知りたい、知らせたい」投稿なども大いに歓迎する。

○…ところで、昨年暮れ高校の学習指導要領改訂案が発表されて以来、先生たちから小中学校の指導要領に比べ新聞活動の記述が見られないとの声をたびたび聞いた。

○…全国でもそうした意見が強く、日本新聞教育文化財団は1月、文科省に小中高と継続した新聞活用などを求めるパブリックコメントを提出した。小紙の中でもこうした現場の生の意見を掲載できればと思っている。(小)

ジット」を支援し、北星学園大学では、メディアと社会を大きなテーマに据えて公演講座も開いている。

（朝日新聞北海道支社報道センター次長・大脇真矢）

千歳市長賞「古かつこいい新聞」千歳市緑「恵庭の読書」恵庭市若草「北広島のラジオ局メイプル」北広島市若葉、「故郷」栗山町継立論説委員や編集委員による公開講座も開いている。

（同デジタル）▽会長賞

「馬か不思議新聞」恵庭市

松恵△NIE賞「牧場物語」

IIE賞「千歳の冬を見なおす新聞」千歳市末広▽館長賞「馬か不思議新聞」千歳市緑「恵庭の読書」恵庭市若草「北広島のラジオ局メイプル」北広島市若葉、「故郷」栗山町継立論説委員や編集委員による公開講座も開いている。

（同デジタル）▽会長賞

「馬か不思議新聞」恵庭市

松恵△NIE賞「牧場物語」

2月28日は午後1時から開会式、総会に続き記念講演な

どがある。29日は午前9時から研究発表があり、道内

からは、千歳高の菅原晃教

レスセンター（東京都千代

田区内幸町2-12）で開か

れる。